

「第17回石川県書写書道教育研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長
第17回石川県書写書道教育研究大会長
藤 則 雄

石川県書写書道教育連盟は、幼稚園から大学に至るすべての学校教育機構が一体となり、授業研究を中心に、最近における書写書道に関わる教育諸問題や教育改革に伴う教師の資質向上に力を注ぎ、児童・生徒の豊かな心の育成に資する全国大会での研究発表や今日的教材研究の討議を行なってきました。

18年度は、11月27日に小松市において「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」を大会テーマとして公開授業 1) 篆刻の指導～仕上げのための印のバランスを考える～
本間千恵 (小松明峰高校)
2) 平がなの筆づかいを知ろう 「にじ」越井千鶴 (小松市立串小学校)
研究協議会Ⅰ. 公開授業1) の整理会
助言者 中川素子・司会 田中 学・記録 酒井喜久子
研究協議会Ⅱ. 授業実践に向けての手立てを探る；全国大会の参加報告
1) 第46回全日本書写書道教育研究会 東京(杉並)大会 八田和幸
2) 第31回全日本高等学校書道教育研究会 大阪大会 田中 学
公開授業2) の整理会
助言者 中西外美・司会 間野清美・記録 西井由以子
研究協議会Ⅲ. 研究報告「書写コンテンツの紹介」 飯田淳一他
等で、夫々に極めて真剣な討論と総括がなされ、誠に有意義な大会でありました。殊に、本連盟の新研究：コンピューターを使つての授業開発―「書写コンテンツ」は、今後の書写書道の在り方に一石を投ずる指針でありましょう。

本「大会集録」には、平成18年度の研究大会の報告を中心に掲載してあります。会員各位には、本誌をご参考に、石川県の書写書道教育の更なる発展の一助ともされ、何とぞ「心の優しい、豊かな心」の生徒を育てて下さい。

平成18年度における各種活動や研究大会の開催に多大のご尽力を賜った実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に並々ならぬご努力を頂いた役員、就中、永江芳教理事長・中川晃成事務局長・岩田稚子・八田和幸副事務局長、及び補佐の任に当たられた方々に、また本年度の研究大会でご発表された諸先生方と実践発表にご協力された助言者・司会・記録者に心からの敬意と感謝の意を表します。

本会の益々の発展と会員のご健勝・精進を祈念いたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 第17回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 公開授業Ⅰ報告	7
高等学校1年 「篆刻の指導」～仕上げのための印のバランスを考える～ 本間 千恵 (石川県立小松明峰高校)	
4. 研究協議会Ⅰ報告	
研究協議会Ⅰのまとめ	13
5. 公開授業Ⅱ報告	15
小学校3年 平がなの筆づかいを知ろう「にじ」 越井 千鶴 (小松市立串小学校)	
6. 研究協議会Ⅱ報告	20
「授業実践に向けての具体的手立てを考える」 ◇全国高校書道教育研究大会報告 田中 学 (石川県立伏見高等学校) ◇第47回全日本書写書道教育研究大会報告 八田 和幸 (金沢市立高岡中学校) ◇書写コンテンツの作成とその活用 飯田 淳一 (金沢市立大徳小学校)	
研究協議会Ⅱのまとめ	37
7. 大会に参加して	43
8. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	45
9. 平成18年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	50
10. 石川県書写書道教育連盟規約	52

第17回石川県書写書道教育研究大会

平成18年11月27日(月)

第17回

石川県書写書道教育研究大会

石川県立小松明峰高等学校
小松市立 串小学校

大会 テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

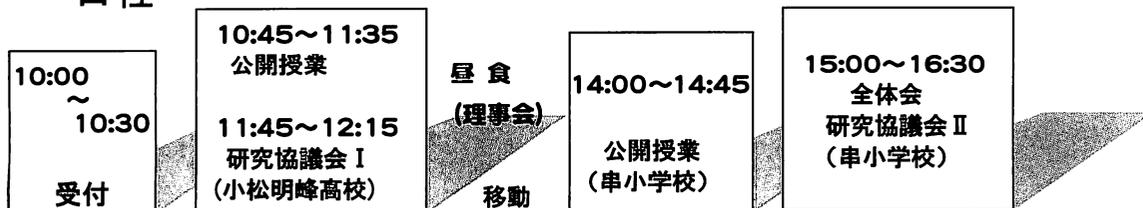
主催:石川県書写書道教育連盟

後援:石川県教育委員会

:小松市教育委員会

:石川県私立幼稚園協会

日程



公開授業Ⅰ（10：45～11：35）県立小松明峰高等学校

（敬称略）

高等学校1年

「篆刻の指導」～仕上げのための印のバランスを考える～

指導者 本間 千恵 （石川県立小松明峰高等学校）

研究協議会Ⅰ（11：45～12：15）

（敬称略）

公開授業Ⅰについての授業整理会

助言者 中川 素子 （石川県教育委員会学校指導課指導主事）

司会 田中 学 （石川県立金沢伏見高等学校）

記録 酒井喜久子 （石川県立津幡高等学校）

12：15～ 昼食休憩・移動

理事会

13：40～ 午後受付

公開授業Ⅱ（14:00～14:45）小松市立串小学校

（敬称略）

小学校 3年

平がなの筆使いを知ろう 「にじ」

指導者 越井 千鶴（小松市立串小学校）

全体会・研究協議会Ⅱ（15:00～16:30）

（敬称略）

全体会

- *あいさつ 石川県書写書道教育連盟会長
- *祝辞 石川県教育委員会・小松市教育委員会

研究協議会『授業実践に向けての具体的手立てを考える』

- *「全国大会」参加報告
 - ・第46回全日本書写書道教育研究会東京（杉並）大会報告
 - ・第31回全日本高等学校書道教育研究会大阪大会報告

- *公開授業Ⅱについての授業整理会
- *本連盟研究部から「書写コンテンツ」の紹介

助言者 中西 外美（石川県教育センター指導主事）
司会 間野 清美（白山市立旭丘小学校）
記録 西井由以子（小松市立蓮代寺小学校）

公開授業Ⅰ報告

研究協議会Ⅰ報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅰのまとめ

篆刻の指導

～ 仕上げのための印のバランスを考える ～

石川県立小松明峰高等学校 非常勤講師 本間千恵

1、はじめに

篆刻の学習は1年次においてあまり取り扱わないことが多い単元である。しかし「書を愛好する心情を養う」という書道目標においては、欠かせない単元であると考えている。私が8年前から行っている授業アンケートでは、「一番楽しかった単元は何でしたか」の問に篆刻の学習が必ず上位を占め、選択する生徒の多くが毛筆活動ではやや消極的な態度であったが、篆刻では楽しく授業に取り組めたと答えている。さらに新たな分野を知ったことで、書道が好きになった、興味を持ったとの意見もあり、生涯教育を考える上でも篆刻の学習は大変重要であると思われる。それ故、授業時数の配当が他の単元に比べかかりやすいという難点はあるが、私の授業では必ず篆刻の学習を取り上げている。ここでは、指導する上でなかなか生徒が理解し難い篆刻の美しさについて、主にプリントを使用しながら指導した授業の実践である。

2、授業内容について（別紙 資料1 学習指導案参照）

①単元のねらい・指導計画について

②本時の学習について

（別紙 資料1～3参照）

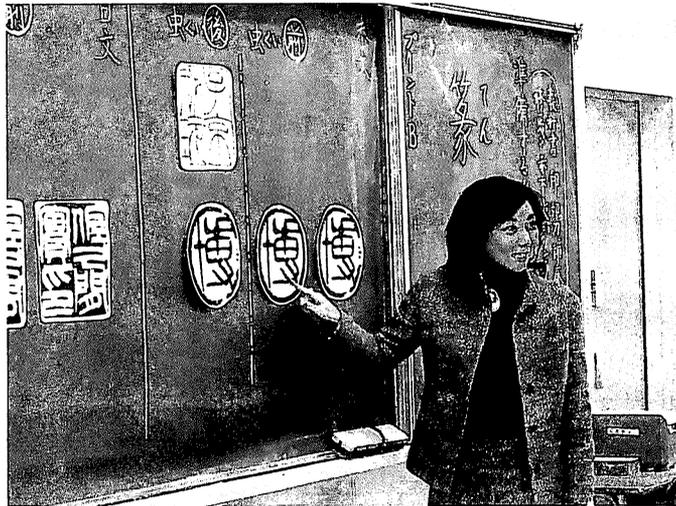
3、授業後の質疑応答からのアドバイス

- ・ 「虫くい」という俗語も良いが、「撃轍」という本来の言い方もあわせて話すよりも良かったのではないかな。
- ・ 虫くい箇所を復元させたものと比較させる手法も良かったが、さらに本来の虫くい箇所と別の箇所を虫くいさせたものも比較させると、より一層虫くいの効果が明らかになり、生徒自身の理解も深まり、自身の印に反映させやすいのではないかな。
- ・ 「虫くい」という故意に欠けさせることにより表現される美は、「わび・さび」にも似ており、書に限らず華道や茶道といった日本の文化に通ずる美意識を感じた。このような美しさは日本人だからこそ理解できる美であり、生徒たちがこういった東洋の美に感じ、触れることで、日本の文化を再認識し大切に作る心が育まれるものと期待している。

4、授業を終えて

最初、生徒たちは「虫くい」（故意的な欠け）が篆刻の美であることに大きな驚きを感じていたようであった。しかし、虫くいの効果を全体のバランスを取るという視点からアプローチした指導方法により、生徒たちも理解しやすかったようである。作品全体のバランスを考えることは、毛筆作品の制作時から常に行っており、余白の大切さを意識しながらの鑑賞は2学期

この時点では随分身についてきている。それ故、方寸の世界といわれるわずか一辺が2センチ程の面積でも毛筆作品と同様に考えることができ、バランスを考えての虫くいが理解できたと考える。実際に刀を使って、輪郭を欠けさせる際はためらいもあったと思われるが、事前に修正ペンを使用し虫くい後の作品をイメージできたことが安心感を与え、自信を持って欠けさせることができた。どの生徒も虫くい前と後を比較してみると明らかに変化しており、広がりのあるバランスの取れた印になっていた。完成時の喜びは達成感と満足感にあふれており、さらに今後この印を使用する期待感も感じられた。その後、第8次完成の授業では、指導主事のアドバイスの話にあった、東洋の美について、虫くいのような故意に欠けさせて表現する美は日本人だからこそ理解できる美しさであると話したところ、生徒たちも非常に興味を持ち、うれしそうに他の生徒の作品を熱心に鑑賞していた姿がとても印象的であった。



資料 1

芸術科（書道）研究授業指導案

学校名	石川県立小松明峰高等学校		
指導者 職 氏名	非常勤講師	本間千恵	
指導日時	平成18年11月27日（月）3限目	教室名	書道室
対象生徒	普通科 1年生19名（内訳 14H 男子8名、女子11名）		
科目名	書道 I（単位数 2単位）		
使用教科書	教育出版 書道 I		

1 単元名 篆刻の学習（色紙に押す7分印の作成）

2 単元の目標

- ・ 篆刻の歴史を知り鑑賞することによって、その美しさや良さを感じ、篆刻に対する関心や興味を高める。【関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】
- ・ 篆刻が書表現の一つであることを理解し、自身の制作印に工夫を加える。【芸術的な感受や表現の工夫】
- ・ 印完成までの手順と技法を習得する。【創造的な表現の技能】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

全体的に明るい雰囲気の中で、意欲的に授業に取り組み、高い完成度が期待できる。進度においては、ほとんどの生徒が時間内に作業を終えることができているが、1割程度（2人）の生徒が、考える時間に多くをとるため、取り掛かりが遅く、遅れ気味の傾向にある。

(2) 指導方針・方法

篆刻の学習は多くの過程を経て完成に至るため、苦勞する生徒も多いが、完成時には深い達成感の味わえる単元である。また、自身の書作品に使用するため意欲的に取り組む姿勢も生まれる。実際の展開では配当時間をどのように設定するかが問題である。時間のかかる印稿、布字を粗略に扱っては学習が充実したものとならないが、生徒が特に苦勞し、途中嫌気がでてくる布字の作業を、コピー転写による簡単な方法を用いることで、運刀と補刀の時間に多くの時間を充てた。さらに「虫くい」の作業（印のバランス）をすることで、篆刻が書の分野であることを意識し、刻られた文字の風趣を体感させる。

(3) 教材設定の理由

- ・ 生徒は「書道」を筆、墨、硯、紙による書く行為のみと考えている。篆刻に触れ、制作することにより書表現の幅広さが理解できるようになる。
- ・ 制作した印を自身の作品に使用することにより、充実感、達成感を味わうことができる。
- ・ 古来、「信を示す要具」として大切にされ、発展してきた印の歴史に触れ、鑑賞することにより、文字文化の奥深さを感じ、刻られた文字の風趣が体感できる。

4 単元の指導計画(総時間数10時間)

第一次	篆刻の導入Ⅰ	(印の歴史に関する解説、印の用途と形式)	(1時間)
第二次	篆刻の導入Ⅱ	(完成までの手順説明と選文・検字)	(1時間)
第三次	制作	(印稿作成)	(1時間)
第四次	制作	(布字)	(1時間)
第五次	制作	(運刀)	(3時間)
第六次	制作	(押印・補刀)	(1時間)
第七次	制作	(補刀〔虫くい〕)	(1時間) …本時
第八次	完成	(印箋に押す・合評)	(1時間)

5 本時の学習と評価の計画 (第七次 制作)

(1) 本時のねらい

- ・古代の印等から、全体のバランスの大切さと虫くいの重要性を理解することができる。

【鑑賞の能力】

- ・古代の印等から感じ取った美意識を表現に生かし、自身の印に工夫を加えることができる。

【芸術的な感受や表現の工夫】

(2) 準備・資料等 教科書、プリント、印、印刀、印泥、印床、赤ボールペン、修正ペン

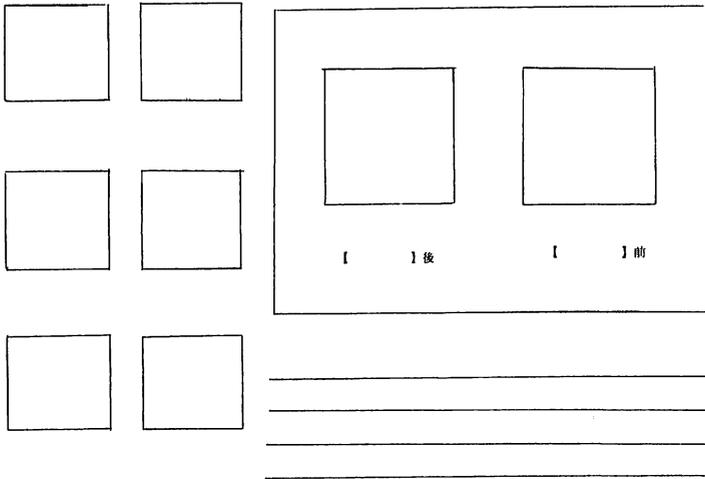
(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 (観点・評価方法)
導入 5分	・本時の学習内容の確認	○道具の確認をする	・印を、今以上に完成度を高めることを意識させる	
展開 ① 15分	・バランスの大切さを古代の印等から感じ取り、理解する(虫くいの重要性)	○プリントB(資料2)の古代印に書き込みを加え、虫くい前と後での表現を比較し、隣の人と話し合う(ペア学習) ○趣の違いを発表する	・虫くいの説明をする ・黒板に虫くい前と後の拡大図を貼る ・比較させ趣の違いを発表させる	・古代の印等から、全体のバランスの大切さと虫くいの重要性を理解することができる。 【鑑賞の能力】 (観察、プリント)

<p>展開 ② 25 分</p>	<p>・古代の印等から美意識を感じ取り、自身の印に工夫を加える</p>	<p>○虫くいの箇所について古代の印を参考に考える（どこを虫くいさせると効果的か）</p> <p>○プリントB（資料2）の虫くい前の印影に、赤ボールペンで4等分する線を書き入れ、4等分の面積の中で込み合っている箇所を探し出す</p> <p>○古代の印を参考に自身の印影で虫くい箇所を考え（4等分方式）、修正液と赤ボールペンを使用しながら、決定する（ペア学習）</p> <p>○隣の人とお互いに話し合いながら、意見の交換を行い参考にする</p> <p>○虫くい箇所を補刀する</p> <p>○押印、補刀を繰り返し、完成させる（資料3を使用）</p> <p>○プリントA（資料2）の第六次制作時の印影の横に押印する</p> <p>○自身の印影（虫くい前と後）を比較しながら、バランスの変化を感じ取る</p> <p>○隣の人々の印影を鑑賞し、合評する（ペア学習）</p>	<p>・虫くいの重要性を説明する （毛筆作品制作時と同様であることを意識させる）</p> <p>・黒板の拡大図に線を書き、4等分の面積で考えさせる</p> <p>・込み合っている箇所を虫くいさせ、印に広がりを持たせることを感じさせる</p> <p>・机間指導をしながら、アドバイスを与える</p> <p>・白文の生徒には四隅の角を落とすことから始めさせる</p> <p>・補刀に際し、書き込みの箇所と逆になることに注意を促し、慎重に刻るよう指導する</p> <p>・印の広がりに着目させる</p> <p>・毛筆作品制作時と同様であることを認識させる</p>	<p>古代の印等から感じ取った美意識を表現に生かし、自身の印に工夫を加えることができる【芸術的な感受や表現の工夫】 （観察、プリント提出）</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>・学習のまとめ</p>	<p>・次回の学習内容を知る</p>	<p>・次回の学習予告をする</p>	

資料2

< 印影 >

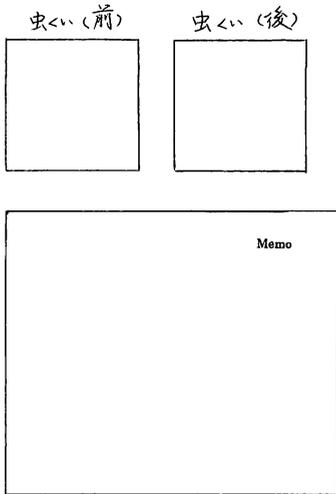


篆刻

プリントA

名前へ

)



自分の印で考えてみよう!



朱文
子波輪宛 氏印 蘇峰



白文
渡金 秋園五



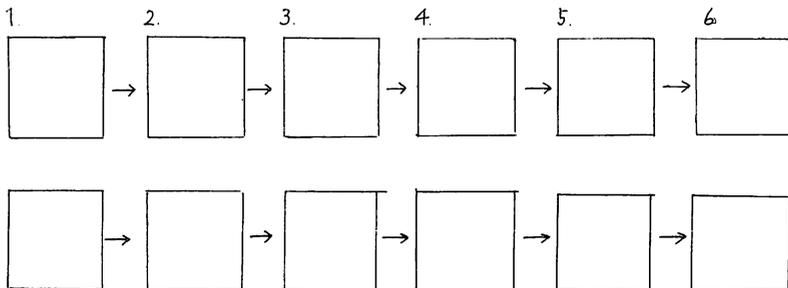
先久 阿賀印



資料3

印影の変化

名前



研究協議会 I 記録

公開授業 I についての授業整理会

石川県立津幡高等学校 酒井喜久子

1. 授業者（本間先生）より

生徒達は伸び伸びとしていて意欲があり、学校も芸術の教科を大事に思って楽しんでくれていて嬉しく思う。“篆刻”は必修ではないが必ずやるようにしている。その理由として、生徒達の一年の最後のアンケートでも一番評判がよいことや、一学期の毛筆活動で自信を失くした生徒も二学期に“篆刻”をやって張りがあって楽しかったという意見があり、年間を通して皆が楽しめる授業を考えた時必要性があると考えて行っている。

2. 質問・感想

・生徒達が楽しく授業をしていること、先生の準備が整っている点がよい。
“虫くい”を問うのに、すでに黒板に書かれていたのはどうしてか。シャープペンシルの持ち方が気になったが、硬筆の指導はどうしているのか。

→ 返答

“虫くい”については、授業前に生徒達から質問される為書いておいたが、本来は書かないほうがよいと思う。

硬筆については三学期にやっている。書いた文字が人に読まれることを意識させ、丁寧に書くことを目標に取り組んでいるので、持ち方については特に指導していない。

・上手に刻ってあり驚いたが、デザイン（印稿）作りは、どのように指導しているのか。

→返答

印稿作成には時間をかけている。鉛筆で色々なパターンで15～20ぐらい書かせた中から、古代印等を参考に見せて雰囲気の良いものを一つ選ばせている。書き方は大きく白文は太く朱文は細く書くように指導している。文字数も朱文か白文かも各自で決めさせ、自主的な気持ちを持たせている。何かの折りに生涯やって欲しいので、出来上がった喜びを先にイメージさせて楽しみながら刻ることをモットーとしている。時間のかかる布字は、コピー転写している。

・教えることと生徒の考える時間のバランスがよく1時間が充実している。

→返答

この後の授業で色紙に行書で漢字一字書を書くのでその色紙に合う落款印として石は7分（約2.1cm）を使用している。自分の書いた作品に早く押印したいということで意欲が持て集中出来るのではないかと。

・書道 I で篆刻を扱うのは気嫌いされがちだが楽しく平易にわかりやすく指導している。“虫くい”は俗語なので“撃辺”と言ったほうが良い。資料（プリント B）で虫くい前の印影を A、B、C、D に 4 等分させた時、反対側を虫くいさせたらどうなる

のか。反対側を撃辺させなかったのには理由があるから比較させ違いを見させればよい。その時に別に言葉はいらないと思う。生徒達の感性に合った指導をすればよい。

・撃辺したものを元の形に戻してみるというのはテクニックだと思う。返したのを見て作者が何故そこを欠いたのかを知ることにより、美的センス・味わい方を身につけることにつながっていくのではないか。

・“重ね押し”の指導も是非して欲しい。“重ね押し”することで印泥本来の色が鮮明にでてくる。

・一年間の授業配分はどうなっているのか。

→返答

一学期は毛筆活動で「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」と倣書（2文字）、漢字仮名交じりの書（5時間）、小筆で名前を書く（2時間）で量よりも知って欲しいものを中心に計6作品仕上げる。自己評価表も提出させている。二学期は篆刻（10時間）、行書で色紙に一字書、夏休みの課題として生活の中の書の収集なども評価している。三学期は、仮名、漢字仮名交じりの書（一学期は構想段階）

・教科書の上で押印していたがなぜか。

→返答

“印褥”がないので、何も指導しなければ、机の上で押してしまい印泥がつかないことになる。いつも持って来ていて身近にあるものということで教科書を使っている。

3、助言者より

ペア学習しやすいように生徒をすわらせるなど細かい所での気配りがされている。篆刻（氏名印を刻る）という、一人一人の個に応じた指導の中で“言葉”を正確に用いて指導されている点“言葉”で理由づけをして指導している点が参考になった。

「言葉を大切にする」— どの教科の指導においても、明確に言葉で理解させることが必要である。“鑑賞”の場面でも、生徒から出てくる言葉から時間をおかずにポンポンとかえってくる言葉で日頃の指導の成果がうかがえる。書と言葉の関係からも、“言葉”を大事にしていくことが芸術科書道の目標達成につながるのではないか。

“虫くい・撃辺”について— 華道でも、わざと枯れた葉や虫くいの葉を用いて味わいを出したり時間の変化をみていくということがあるが、このような感性が東洋や日本の文化にあるのではないか。大きな書の世界での広がりから、さらにもっと文化的な感性にまでいくと、ものすごく世界が広がっていくのではないか。感性を育てていく— それを生徒が喜び、楽しみを味わいながらやっていく本当に素晴らしい授業であると思う。

公開授業Ⅱ報告

研究協議会Ⅱ報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅱのまとめ

3年1組国語科書写学習指導案

11月27日（月）5時間目

指導者 越井 千鶴

1. 単元名 平仮名の筆使いを知ろう「にじ」
2. 目標
 - ・平仮名の筆使いを理解する。 (知識・理解)
 - ・平仮名の筆使いに気をつけて、毛筆で「にじ」を書く。
(技能)
 - ・文字の大きさや中心に気をつけて、文章を書く。
(知識・理解, 技能)

3. 指導にあたって (教材について)

前単元までに、児童は、漢字と片仮名を書く時の筆使いについて、学習してきた。本単元では、漢字とは違う平仮名特有の柔らかく、やさしい筆使いを学習することになる。児童の多くは、両者の筆使いが違う事など思いもしないだろう。そこで、まず、「にじ」では、平仮名の筆使いの特徴について、今までに書いてきた漢字と比較しながらその違いを捉えさせていきたい。漢字の硬さに比べて、平仮名の持つ柔らかさや丸みなどが、始筆の入り方や筆使いの違いから生まれることを理解させていきたい。また、書くときのリズムや呼吸も、漢字のときとは違うことも感じられるよう促していきたい。

この単元で、平仮名を扱ったことにより、『毛筆で学んだことを硬筆に生かしていく』応用学習では、漢字仮名交じりの文章の書き方を学習する。この「文字のひみつをさぐるう」では、文章を、文字の大きさや中心に気をつけて書けるようにさせることが大切である。文字の大きさは、漢字に比べて平仮名を少し小さく書き、文字の中心を行の中心に揃えて書くと、読みやすく整った配列になることに気づかせ、できるようにさせていきたい。

(子どもについて)

3年生は毛筆入門期であり、道具の名前、用意の仕方、姿勢、筆の持ち方といった基本の学習から始まった。児童は、筆を持ち伸び伸びと文字が書けるこの書写の時間が大好きである。初め、始筆、送筆、終筆から始まった学習にも、意欲的にまた集中して、その時間のめあてに向けて一生懸命取り組んできた。しかし、意欲はあるものの、まだまだ自分の思い通りの文字は書けないのが現状である。そのため、一時間毎にポイントを絞っためあてを設定し、その点での成長を見つめることを大切にしてきた。また、最初は、準備や片づけにも時間がかかったが、少しずつではあるが、早く、上手にできるようになってきている。児童が、自ら考え、気づき学習していくことを大切にしたいため、次のような授業の進め方を考えている。児童は、まず、今までの知識の中で「にじ」を書いてみる。次に、コンテンツや手本の筆使いを見て、自分の作品と比較し、平仮名の筆使いに気づき、めあてを持つ。さらに、そのめあてに向けて練習をし、まとめ書きの作品を書く。最後に、

試し書きとまとめ書きの作品を比べ、自分の成長を評価するという流れである。自分の気づきや友だちの気づきから学んだことを生かして実際に書き、自分の作品の中で自身の成長を実感していくことが次の意欲へとつながり、書写の楽しさを感じられると考えるからである。

(机の配置について)

机の配置についていろいろ試みた。1学期は、指示が通りやすい事を考え、前向きで学習した。2学期初めには、風車状に並べ、グループの子が書いた作品が見えるようにしてみた。グループでお互いに鑑賞し合い、アドバイスをしながら書く様子が見られた。しかし、アドバイスの声が聞こえ出すと、静かではなくなり書いている子への妨げになるとか、コンテンツが見えにくいというマイナス面が見えだした。そこで、今回は、コンテンツや拡大手本を見て考える学習であることから、机の配置は、前向きにした。

(コンテンツの利用について)

指導にあたってコンテンツの利用を試みている。教師が、指導時に水書板に書くと、児童に背中を向けてしまい、見ている児童の表情が見えない。また、教師の手の動きも児童には見づらい。それで、筆使いをよりわかりやすく見せるために工夫されたコンテンツを利用してきた。児童は、文字ができあがる様子や書く速さなどを集中して見て、学習している。コンテンツは、筆使いや書く速さが体感できるので、児童は繰り返し見たがる。その上、指導者が机間指導に当たっている間も、見たい子は見ることができ、便利である。

利用する場面としては、①準備の仕方の画面を表示する時。②「にじ」全部を書く筆使いを見せる時。③部分の筆使いを見せる時。④姿勢や筆の持ち方の確認する時。などがある。どの場面で見せるのが効果的であるのか、まだまだ考えていかなければならない事である。

4. 学習計画 (総時数 3 時間)

次	ねらい	児童の学習活動	支援(・)と評価(★)
平 仮 名 の 筆 使 い を 知 ろ う	平仮名と漢字の筆使いの違いを理解して「にじ」を書く。 ・平仮名の筆使いの特徴を見つけて書く。 (2時間)	平仮名と漢字の筆使いについて違いを見つけよう。 ・「にじ」を書いてみよう。 (本時 1 / 2)	・コンテンツを見せ、比較させる。 ★平仮名と漢字の筆使いの違いが分かって書くことができる。 ・中心線の入ったコンテンツを見せる。 ★「にじ」を筆使いと中心に気をつけながら
		・「にじ」を平仮名の筆使いと中心に気をつけながらまとめ書きしよう。 (1)	

文字のひみつをさぐるう	文字の大きさや文字の中心に気をつけて漢字かな混じりの文章を書く。(1時間)	文字の大きさと中心に気をつけながら文章を書いてみよう。 (1)	書くことができる。 ・文字の枠や中心線を入れた練習用紙を用意し、大事なことに気づかせる。 ★文字の大きさや中心に気をつけて原稿用紙に文章を書くことができる。
-------------	---------------------------------------	------------------------------------	--

5, 本時の学習

(1) ねらい ・平仮名の筆使いを理解して毛筆で「にじ」を書く。

(理解・技能)

(2) 展開

学習活動	配時	児童の主な意識の流れ	支援(・)と評価(★)
1, 本時の題材を知り, 試し書きをする。	5	○教科書を見ないで半紙に「にじ」を書こう。	
2, めあてをつかむ。	2	ひらがなの筆使いで「にじ」を書こう う	
3, 平仮名と漢字の筆使いの違いについて話し合い, 規準を確かめる。	8	○漢字とひらがなとどこが違うだろう。 ・まがりがるいよ。 ・入り方(始筆)がひらがなはやわらかい。やさしい。 ・にのはね方が上にはねている。 ・線が, まっすぐでない。くねってしてる。 ・柔らかい感じがする。 ・つながっている感じがする。 ○自分の試し書きを直してみよう。	・コンテンツを見せて考えるヒントにさせる。 ・拡大手本をはり, 規準の確認に使う。 ・赤チョークで直させる

4, 練習をする。	15	○練習用紙, かが字用紙などで練習をする。 ・ つづくようにかきたいな。 ・ 柔らかい感じをだしたい。 ・ コンテンツをもう一度みたいよ。	・ 姿勢, 筆の持ち方をコンテンツで確認する。 ・ 練習用紙を配る。 ・ 縦画の始筆の入り方 まるみ, 終筆の終わり方に絞って今日は練習させる。
5, まとめ書きをする。	5	○筆使いを理解して今日のまとめ書きをしよう。	
6, 評価をする。	8	○自己評価する。 ○となり同士でまとめ書きを見合い評価する。 ○代表の作品をみんなで見合い, アドバイスをもらう。	・ 赤チョークでできている規準に○をつけさせる。 ★始筆, 終筆, まるみの特徴を理解して毛筆で「にじ」を書くことができる。
7, 次時の学習を知る。	2	○次は「にじ」の中心に気をつけてまとめ書きしよう。	

6, 授業を終えて

書写の時間が楽しい、筆で字を書くことが好きだ、という子供の気持ちを大切に、その気持ちを持続させていきたい。毎時間そう願いながら授業に向かう。そのために必要なのは、子どもたちが、うまくかけたという満足感を持てることだと考えている。

今回の授業を終えて、ますます子どもたちが書写を好きになったことを実感することができた。試し書きの字と本時のまとめ書きの字が明らかに違った。そのことをそれぞれの子どもたちが自己評価し、満足することができたからである。

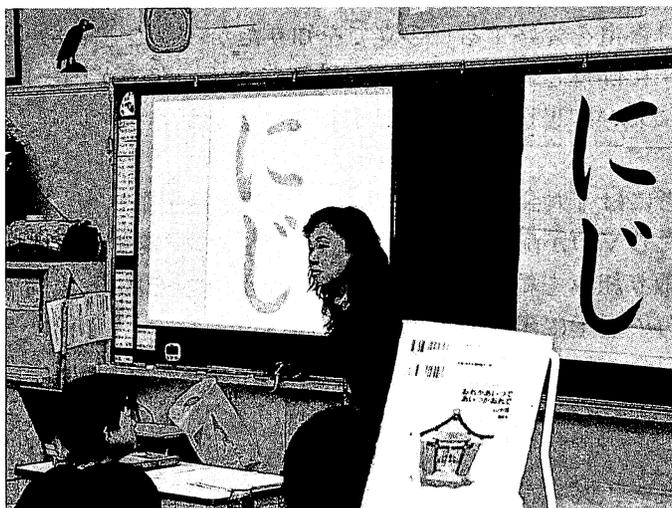
コンテンツを見ながら活動できたことがそれに大きく関わっているのは、明らかだ。本時のめあては、「ひらがなの筆使いを理解して書く」である。コンテンツを見ながら、漢字の筆使いとひらがなの筆使いの違いを考え、話し合った。みんなで確認した後、自分で試し書きに赤チョークを入れた。自己評価をすることで、筆使いを意識し書くことができたようだ。特に、ひらがなの持つやわらかさや始筆、終筆にも気を配ることができた。また、コンテンツを繰り返し見ることで、ひらがなを書くときのリズム、呼吸も感じる事ができた。静かな中、自分の捕らえたものを各自が、白い紙に表現することができたようだった。

最後に、みんなで作品を見合ったときに、友だちの字の変化に驚く。思わず拍手が生まれた。友だちがうまくなっていくことを喜ぶ子どもの姿がとても嬉しかった。

うまく書けることが子どもの気持ちを動かす原動力になる。次の時間も根気よく丁寧に自分の作品を仕上げている姿を見ることができた。

中心線を意識させたり、字の大きさや組み合わせを捕らえさせたり、いろいろなことがコンテンツを利用することで簡単に可能になってくる。また、コンテンツを見せながら、個々に学習の機会を与え、一方で担任は、個人の手を取り一緒に書く時間を確保できる。より多くの子どもたちの手を取ることができるようになった。

しかし、「大」の右払いを学習するときは、なかなかコンテンツだけではうまくいかず、担任が筆を持ち実際に範書するということがあった。また、移す角度によって、筆の入り方や角度が捕らえにくいということもあった。コンテンツばかりを頼るのではなく、従来の指導などを取り入れ、組み合わせていくことが大切だと考える。種々の方を法を知っていることはより深く、適切な指導へとつながるだろう。今回、コンテンツを使い指導させていただくことで、3年生の子どもたちに毛筆の基礎基本を適切に指導できたと思う。支えてくださった先生方に心から感謝している。



「第31回全日本高等学校書道教育研究大会報告」

石川県立金沢伏見高等学校 教諭 田中 学

開催日：平成 18 年 11 月 18 日（土）19 日（日）の二日間。

会場：大阪市の帝塚山学院高等学校。

大会テーマ：『書道教育の在りかを求めて～改めて問う、書道教育で何を育て得るか？』

参加動機：指導要領において「漢字仮名交じりの書」の内容が盛り込まれてから久しい。これまで石川県内の各高校をはじめとして、各地でも試行錯誤が行なわれ様々な授業が実践されてきたと思われる。参加に際しては、実践例を聴くのはもちろん、「芸術科に位置づけられる書道という教科において、評価の方法」という日頃からの疑問が解決できるヒントが得られるかもしれないと考えたからであった。また、もうひとつの理由として「書道を愛好する」手立てを知りたかったこともある。

日程：今回、週末に開催された（しかも二日間とも研究発表が同一内容である）理由は、昨今の状態において書道教諭の平日二日間の参加が非常に困難な状況にあるからという。

参加報告：参加者には『大会集録』と『私のイチ押し授業』、そしてその教材に関する内容が集録されたDVDが配布された。『私のイチ押し授業』とは、大阪府内の書道担当教諭が自分の取り組みを紹介するという分厚い別冊本である。非常に充実した内容であり、今後自分の授業に活用できるものであった。

一日目は、分科会『「指導と評価の一体化」の実践研究』に参加。

発表者は舩添真一氏（大分県立大分舞鶴高等学校）。氏は「評価結果→その後の指導改善→新しい指導→再度評価」の流れを提案した。その流れというのは、以下の通り。

まず、自己評価表（図 A）による評価を行なう。これを記入することによって生徒と教諭の互いが今後の改善点を共有することができる。次の段階においては、評価を具体的にわけた自己評価表（図 B）への記入。ここには、より詳細な活動内容や授業の目標が明確に書かれてあり、提出の際には生徒の求めていることもはっきりする効果が期待できる。こうしたやりとりを通していく中で個人カルテ（図 C）を実施する。このカルテは指導者が変わった場合であっても、継続的な指導が可能であることに注目したい。そして最終的に評価グラフ（図 D）に書きこむことになる。若干、記入に時間がかかり過ぎる一面もあるが、自己評価と指導者の評価の差異が明らかになり、授業への取り組みのみならず生活指導にもつながる資料にもなり得る、という。

この発表・協議を通じて感じたことは、生徒自身の心・充実感をできるだけ知る機会を作る、ということに尽きるのではないか。実際に発表された氏は様々な場面において多用な「自己評価シート」を作成し、それらの中から個々の生徒の充実さを読み取っていた（しかし、これらの作業は生徒数の多さや他の業務との兼ね合い、「評価のための評価」に陥らないことという課題が残された）。

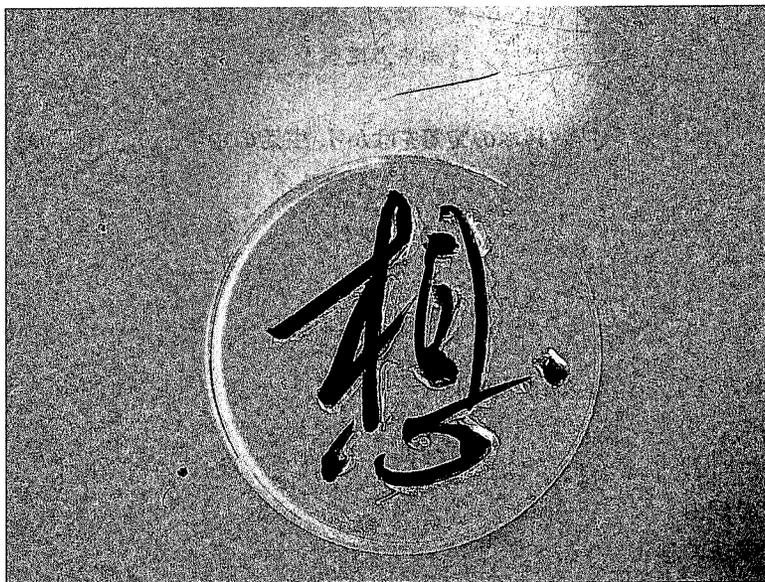
二日目は『工芸的な書、実践研究～新素材で作る身近な書』という授業研究に参加。食パンに砂糖で文字を書いて焼きあがりを楽しんだ後に鑑賞して実食する、アクリル板を使ったミニオブジェ制作など有意義なひとときを体験できた（写真1参照）。

シンポジウムは、二日間ともテーマは「鑑賞」。

何故、このことが掲げられたのかというと、これまで書活動においては「制作」ばかりを重点的に指導してきた傾向にあり、生徒には「制作」を行なう際に先人の作品を見る見識力がないという現状による。

初日には長野氏（文部科学省）から「鑑賞は“知”を深める手段である」「“本物を見た”という体験を専門用語を駆使した言葉にできるように」などの講評をいただいた。二日目は美術担当教諭もパネラーに迎え、鑑賞者という立場からの書の愛好者を育てていく必要性を感じた。

この二日間は非常に充実した時間を過ごすことができました。



第47回全日本書写書道教育研究会
東京〔杉並〕大会 報告

金沢市立高岡中学校 教諭 八田 和幸

1. 授業研究について

会場 杉並区立堀之内小学校

(東京23区の西端、一般には「城西地区」とよばれる区域に立地、落ち着いた雰囲気、
住宅地が多い。校庭は全面芝生)

時期 平成18年11月10日(金) 3限目

小学校テーマ

基礎・基本を習得し、日常化をめざす書写の学習過程

低学年分科会主題 「基礎・基本を知り、生活の中に生かす書写の学習過程」

授業 杉並区立堀之内小学校 2年2組 37名

指導者 世田谷区立三軒茶屋小学校 山本 伸子 先生
杉並区立堀之内小学校 鈴木 あゆみ 先生

①単元名 かん字を書いてみよう 『画や点に気をつけて書こう』

中学年分科会主題 「基礎・基本の定着をはかり、生活の中に生かす書写の学習過程」

授業 杉並区立堀之内小学校 3年2組 31名

指導者 杉並区立杉並第三小学校 田中 恵美子 先生
杉並区立堀之内小学校 笹井 知子 先生

①単元名 「おれ」の筆使いを知ろう 『月』

②単元の目標

- (1)自ら課題を見つけ解決し、進んで学習することができる。(関心・意欲・態度)
- (2)「おれ」の筆使いを確かめて、「月」に書くことができる。(知識・理解・技能)
- (3)他の文字についても、「おれ」に気をつけて書こうとする。(生活の中に生かす)

③単元設定の理由

(1)指導事項の意義(要点のみ)

- ・毛筆学習の初めの学年。姿勢・執筆～用具用材の準備～後方づけまでの基礎・基本習得の学年。
- ・指導事項は、筆使い。
- ・今単元では、「月」を通して「おれ」の筆使いの学習。

「大」で学習した「はらい」(1画目から2画目への空中でのつながりが「はらい」になること)と、「小」で学習した「はね」(2画目から次の3画目へつながることが「はね」になること)にもふれる。

(3)指導の系統 毛筆の筆使いに関する要素の構成

学年	始 筆	送 筆	終 筆	点	平仮名の筆使い	筆使い全体
		直線・折れ・曲がり・そり	止め・はね・払い			
3年	「二」「十」「にじ」	「二」「十」「月」「ビル」「氷山」	「二」「十」「小」「大」「氷山」	「小」「氷山」	「にじ」「ほと」	
4年		「元気」			「ゆず」	「光」「元気」「生命」
5年						「歩み」「愛」「外国」「自然を守る」
6年						「登る」「幸福」「深い友情」「飛び立つ鳥」

④研究主題との関連

I 基礎・基本の定着をはかるための学習過程の工夫

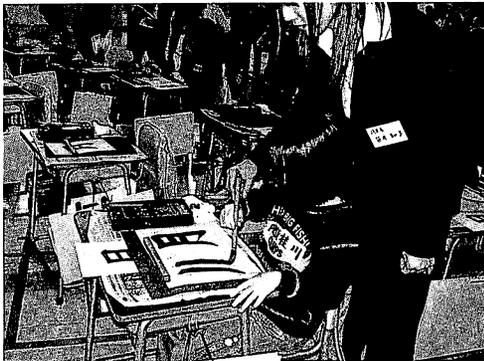
i 正しい姿勢や執筆について常に意識させる。

ii 用具の準備や片づけなどに慣れる。

iii 筆の動きや文字の基準を理解しやすいようにする。

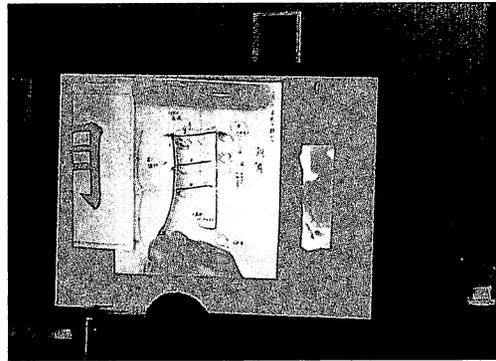
iv 手を添えて指導(※1)したり、**演示(※2)**や**CD-ROM(※3)**で筆使いを見せたりすることにより、文字の基準をつかみやすくする。

v 課題の筆使いをお互いに見せ合い教え合う場を設定する。



(※1)

TTの強みを生かし、手を添えて筆使いを指導。



(※2)

朱墨に濃淡をつけ、筆先の動きがわかるように、教卓に備え付けたカメラ(OHC)で演示。

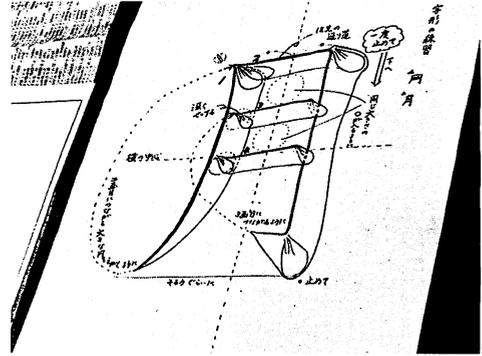


(※3)

パソコンも準備しており、課題追求の時間になった時、何人かの生徒がこのコーナーを訪れ、CD-ROM(光村図書作成)を起動させていた。

II 自分の課題をもち、解決しようとする学習過程の工夫

- i 試し書きと基準文字との比較をしながら書き込みをして課題を明らかにする。
- ii かご字を線でなぞり、色分けすることで、筆順や点画・筆使いを細かに把握できるようにする(※4)
- iii 基準文字と比較できるように、正しく書かれていない何点かの例を挙げて「おれ」の筆使いが意識できるようにする。
- iv 確かめシートや分解文字を操作しながら、字形や、文字のバランスを考える。(※5)
- v 課題にあった練習用紙を活用する。
- vi 2色筆や水書用紙を使って練習する。(※6)
- vii CD-ROMで筆使いを確認する。



(※4)



(※5)



(※6)

III 生活の中に生かす工夫

- i 教材文字で学習したことを硬筆で書いたり、他の文字に生かしたりして、生活化・日常化できるように意識づけを図る。

IV 意欲につながる評価の工夫

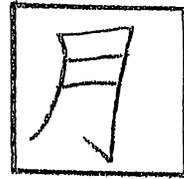
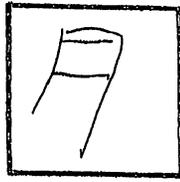
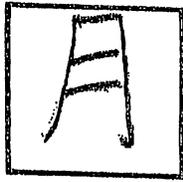
- i 試し書きとまとめ書きを比べることで学習の成果を見る。(自己評価)
- ii 学習カード(評価カード)を利用して、学習を振り返り、次時の課題をつかませる。
- iii 黒板に掲示したり隣同士見せ合ったりすることで、相互評価し、お互いの成果を確かめる。

⑤ 児童の実態 (要点のみ)

- ・ほとんどの児童が書写の時間を楽しみにしている。
- ・準備や後片づけについてはスムーズになってきた。
- ・姿勢や用具の持ち方、始筆・終筆・筆の向きなどについてはまだ曖昧さが残る。

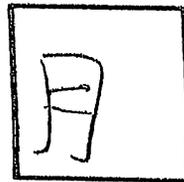
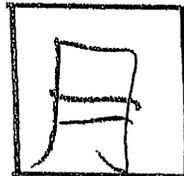
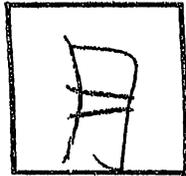
* 「おれ」の向きに課題がある。(31人中12人)

・斜めになっている。



* 「おれ」の形に課題がある。(31人中3人)

・丸くなっている。



* だいたいできている。(31人中16人)



⑥指導計画(3時間扱い) (要点のみ)

主な学習活動	評価	時間
<p>○「月」の文字の基準を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆順確認、試し書き ・基準理解 ・クレパスによるかご書き (筆順や点画・筆使いの把握) ・筆使いの良い例悪い例の演示を見ながら練習 ・試し書きに書き込みをして、(※)自分の課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おれ」の基準を考えることができる。 ・自分の課題を見つけることができる。 ・「おれ」は横画と縦画とが連続しているものとわかる。 	1
<p>○自分の課題にそって練習し、まとめ書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を確かめて練習する。 ・試し書きとまとめ書きを比べて、良くなったところを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習用紙や様々なコーナーを活用して、自分の課題解決をめざすことができる。 	1 本時
<p>○硬筆で、他の文字にも生かして書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「月」を使った文づくりをする。 ・「おれ」の既習文字を探して、書く。 ・これらをつなげてことば遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の学習を硬筆に生かすことができる。 ・文字に対する意識を高めることができる。 	1

⑦本時の学習(2/3時間)

	児童の活動	教師の支援		評価内容	備考
		T 1	T 2		
課題提示	1. ウォーミングアップをする。 2. 学習のめあてを知る。	・学習内容を知らせる。	・学習準備ができていないか机間指導する。	学習のめあてがわかる。	拡大教材文字
「おれ」の筆使いに気をつけて、ていねいに書こう					
課題把握	3. 筆順・基準を確かめる。 ・自分のめあてを明らかにする。 (前時の試し書きを見る)	・前時を思い出させて、文字の基準を発表させる。 ・演示する。	・拡大文字に書き入れている。 「おれ」の筆使いを思い出そう 「おれ」のポイント ・穂先は、十時半 ・止めて、そのまま下へ	筆順・基準を知り、自分のめあてを確かめている。	掲示物 基準を明確にするための例示文字 OHC
実行・追求	4. 練習用紙を使って練習する。 5. 自分のめあてにそった練習コーナーで練習をする。 6. 「おれ」の筆使いをお互いに見合う。 7. まとめ書きする。	・練習用紙を用意する。 ・机間指導する。 ・手を添えて筆使いの指導をする。 ・練習コーナーを活用させる。 ・基準を確かめながら、丁寧に書かせる。 ・練習したことが生かせるように意識づける。		自分のめあてを意識しながら練習している。 基準に気をつけて、丁寧に書いている。	練習用紙 水書用紙 2色筆 分解文字 確かめシート のスケール CD-ROM
まとめ・確認	8. 試し書きとまとめ書きを比べて、学習カードに評価を記入する。 9. 相互評価して、友達の良くなったところを見つけ、学習の成果を発表する。 10. 次時の学習内容を知る。	・黒板に試し書きとまとめ書きを掲示して、自分や友達の良くなったところを認め合えるようにする。 ・次時の学習内容を知らせる。		自分や友達の良くなったところに気づいている。	学習カード

⑧評価基準

評価内容	A. 十分満足できると判断されるもの	B. おおむね満足できると判断されるもの	Cに対する支援方法
ア. 自分の課題を意識している。	・ 自分の課題を十分につかんでいる。	・ 自分の課題をおおむねつかんでいる。	個別支援
イ. 基準に気をつけて書いている。	・ 「おれ」の筆使いに気をつけて、文字の中心や既習の「はらい」や「はね」にも気をつけて書いている。	・ 「おれ」の筆使いに気をつけて書いている。	個別支援 ○手を添えて一緒に書く。 ○適切な練習方法を助言する。 ○たしかめシート
ウ. 自己評価できている。	・ 基準を意識して適切に評価している。	・ 基準を意識して、評価している。	基準にそって評価するように個別支援する。

書写学習カード1

名前

●学習文字

で

●めあて

『 』の筆使いに気をつけて、
ていねいに書こう。

●「おれ」のポイントは

◎よくできた ○できた △もう少し

資料

2	1				
十時半に止めてそのまま下へ	始筆は十時半				
			ためしき		
			自分	まとめ書き	
			友だち		

書写学習カード2

名前

●こう筆でも「おれ」に気をつけてていねいに書こう。

() ()

●「おれ」のある字を集めてみよう。

●集めた文字を上手に使う、ことは遊びをしよう。

高学年分科会主題

「基礎・基本の充実を図り、生活に役立てる書写の学習過程」

授 業 杉並区立堀之内小学校 5年1組 30名
 指導者 練馬区立光和小学校 前野 みち江先生
 杉並区立堀之内小学校 福神 瞳先生

①単元名 「平仮名の字形と行の中心を知ろう」 『もみじ』

②単元の目標

- (1) 平仮名の字形と行の中心に注意して、主体的に取り組む。 (関心・意欲・態度)
- (2) " " を理解する。 (知識・理解)
- (3) " " に注意して書く。 (技能)
- (4) " " に注意して、語句・文を書く。 (生活の中に生かす)

③単元設定の理由

(1) 指導事項の意義 (要点のみ)

- ・平仮名の外形を基に文字の中心を探り、行の中心も意識して書けるようにする。
- ・平仮名の成り立ちを学び、漢字と比べることで、漢字とは違う丸み・柔らかさがあることを再認識する。
- ・硬筆による練習で、字間をそろえることや左右の余白、文字の大きさに気をつけることによって読みやすさが増すことに気づく。
- ・漢字と仮名の文字クイズを活用し、平仮名の特徴や文字の点画相互の関係を考えさせる。
- ・切り取った文字を操作し、行の中心を意識させる。
- ・相手を意識して行を整えながらいねいに招待状を書くことにより、生活の中に書写の学習を役立てていきたい。

(2) 指導事項の系統 (要点のみ)

- ・平仮名の字形を整えるためには、点画の長短・方向・接し方・交わり方に注意して書くと良いことに気づかせたい。
- ・また、文字の外形・中心・画間・組み立て方も字形を整えるために大切。

学年	外形・中心	他教科等との関連
1年	二 ひらがなを かいてみよう 〔じのかたち〕 しかく たてながしかく よこながしかく 四 かん字を かいてみよう 〔字のかたち〕 しかく たてながしかく よこながしかく さんかく	○ 自分の名前 ○ 絵日記 ○ 係の名前 ○ 町探検お礼状 ○ みつけたよカード ○ 七夕の願い事 ○ 招待状・名札 ○ おたより (はがき) 等
2年	二 かん字のひみつをさぐろう 〔字の形〕 たてながしかく よこながしかく さんかく ひしがた 四 かん字を書いてみよう (一) 〔字の形〕 「日」が漢字の一部になるとき 五 かん字を書いてみよう (二) 〔書きじゅん〕 画や点の間 字の中心	
3年	七 文字の大きさと中心 (硬筆)	○ 学期ごとのめあて

4年	五 筆順と字形との関係を知ろう 「左右」 七 文字の中心と平仮名の筆使いを知ろう 「ゆず」 八 筆使いと字形を知ろう 「元気」曲がり・はね そり・はね 九 学習したことを生かして書いてみよう 「生命」	○ 自己紹介カード ○ 係活動表 ○見学新聞 ○ 絵本作り ○ お店の看板 ○ プログラム ○ 社会科見学札状 ○ 招待状・名札等
5年	一 はじめに 「歩み」 六 平仮名の字形と行の中心を知ろう 「もみじ」 九 学習したことを生かして書いてみよう 「愛」「外国」「自然を守る」	○ 学期・1年のめあて ○ クラブ・委員会からのお知らせ ○ 短歌・俳句・詩 ○ 行事のスローガン・プログラム・ポスター ○ きまりや目標 ○ 学級新聞・壁新聞 ○ 招待状作り・札状 ○ 卒業文集・寄せ書き等
6年	一 はじめに 「登る」 九 学習したことを生かして書いてみよう 「幸福」「深い友情」「飛び立つ鳥」	

④研究主題との関連

(1) 基礎・基本の定着を図る学習過程の工夫

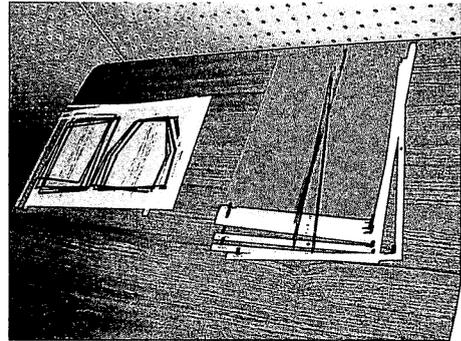
正しい姿勢や執筆の意識化、用具の準備・片づけなどの扱い方に慣れること、基本的な点画の筆使いを理解すること。

I 基準の文字（教材文字）・拡大文字への書き込みや視聴覚機器の活用

- ・文字の基準（原理・原則）と筆の動き、字配り、筆順などが理解できるようにする。
- ・基準の文字と何点かの文字とを見比べて、正しい文字に対する感覚を養う。

II 自分の課題をもち解決に向かう学習活動

- ・試し書きと基準の文字を比較しながら、**筆脈やリズムなどの書字過程**を意識した課題を書き込んでいく。
- ・クリアシートや分解文字を操作しながら、文字の組み立て、文字のバランスを考える。
- ・“一文字を一筆で書く”ということ意識して書く。



III 自分の課題にあった練習用紙の選択や作成

IV 評価カードの工夫

- ・課題意識を明確にし、自己評価・相互評価に役立てる。

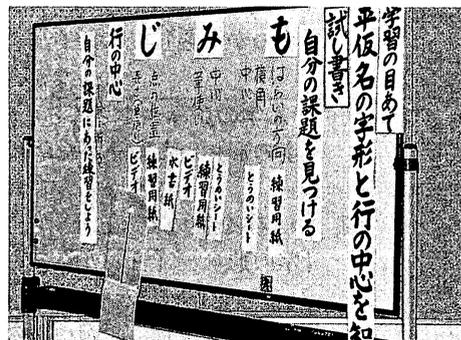
V 作品ファイル

- ・試し書きとまとめ書きを並べて貼り、学習の成果（練習後の変容）を見る。

(2) 主体的に課題解決できる学習過程の工夫

I 自分の課題をもつために自らが解決すべき問題の明確化

- ・試し書きと教材文字との比較、書き込み活動

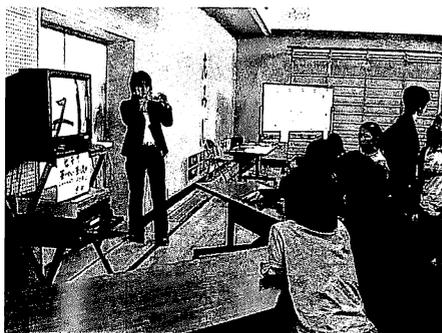


II 課題意識の明確化と自己評価・相互評価

- ・課題別グループ、学習カードの工夫・活用

III 課題を解決する能力の育成

- ・練習用紙を選択したり作成したりすることにより、課題を明確にする。
- ・点画の運動がわかるように教材文字に赤ペンなどで補助線を入れたり、始筆の位置がはっきりするように印をつけたりする。



(3) 生活の中に生かす工夫

- I 児童が目にする場所を「よい文字環境」に整え、より多くの「よい文字」を知らせる。
 - ・教師による板書の工夫や教室内・廊下など、校舎内の掲示物の工夫
- II 相手によって読みやすく、書き手の思いが伝わる文字を丁寧に整えて書く。
 - ・班日記や係、当番からのお知らせなど、掲示物の工夫
- III 文字に対する意識の高まりや、学習成果を認め合えるような工夫をする。
 - ・文字調べ、作品ファイル、教室掲示の工夫
- IV 日常の文字活動に生かす。
 - ・行事における掲示物・ポスター・スローガン・プログラム・招待状・学級新聞など

(4) 意欲につながる評価の工夫

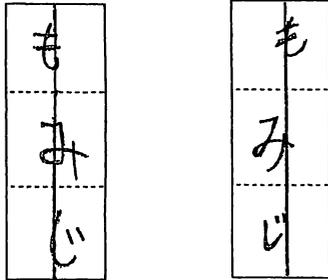
- I 児童の発表や書き込み活動から、知識理解の定着を見る。
- II 試し書きとまとめ書きを比較し、学習の成果を見る。
- III クリアシートと文字スケールを活用し、基準の文字と自分の文字とを比べる。
- IV 評価を診断できる学習カード（評価カード）を活用する。
- V 黒板に掲示したり、課題別グループで見せ合ったりすることで、自己評価・相互評価をして、学習の成果を認め合う。
- VI 基準をしっかりと理解させ、机間指導でよいところを認め、意欲につなげる。
- VII 個の学習の伸びを見るために評価カルテを作成し、活用する。
- VIII 試し書きとまとめ書きを家庭通信に載せ、保護者の理解や励ましを得る。

⑤児童の実態

正確に書こうとする意識がなおざりにされ、あわてて書いた、くせのある文字が定着してしまっている傾向にある。字源を知り、書き順や筆の動きなどを意識させ、行の中心に書けるような指導が必要。各自の課題を意識して、自分に合う練習方法を考えさせ、達成感を味わうとともに文字意識を高めさせるようにしたい。

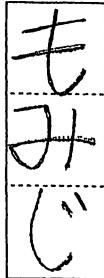
硬筆文字での実態 (児童数30名)

○行の中心に課題がある…30人中15人 (50%)

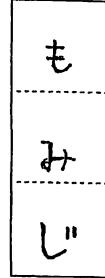


○文字の大きさ (文字の左右の余白) に課題がある…30人中 6人 (20%)

大きすぎる



小さすぎる



○字形に課題がある

も

・ 2画目より、3画目の方が長い…30人中19人 (63%)



・ はらいが短く、はらう方向が適切ではない…30人中24人 (80%)



み

- ・外形が台形にならない…30人中27人 (90%)



- ・1画目の結びが適切ではない…30人中16人 (53%)



じ

- ・濁点の位置が適切ではない…30人中19人 (63%)



- ・1画目のはらいが短く、はらう方向が適切ではない…30人中8人 (27%)



⑥ 指導計画（3時間扱い）

主な学習活動	主題との関連	評価	時間
<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいを知る。 ○漢字クイズから字源を理解する。 ○試し書きをする。 ○基準を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の字形 ・平仮名の行の中心 ○自分の課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外形を図式化して平仮名の字形を知る。 ・試し書きから自分の課題を見つける。 ・T Tによる個に応じた指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試し書きと教材文字を比べて、自分の課題を見つけることができる。 	1
<ul style="list-style-type: none"> ○基準を確かめる。 ○漢字クイズで学習した字源をもとに活動する。 ○課題の解決を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習する ・まとめ書きをする ・評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の基準を理解し、練習用紙を選択したり作成したりする。 ・課題に照らして書けたか、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・字形や行の中心を確かめて練習することができる。 	1 (本時)
<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で学習したことを生かす。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に展示会の招待状を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・行を整えて硬筆で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして、招待状を書くことができる。 	1

⑦ 本時の学習（2／3）

(1) 目標

- ①平仮名の外形を基に、行の中心を見つけることができる。
- ②自分の課題にそって学習することができる。

(2) 展開

	児童の活動	教師の支援		評価内容	備考
		T 1	T 2		
課題提示	1.学習のめあてを確認する。	・学習内容を知らせる。	・基準を提示する。		<ul style="list-style-type: none"> ・めあて ・拡大文字
	平仮名の字形と行の中心を理解して、自分の課題を解決しよう				
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字クイズで学習した字源を確認する。 				

課題把握	2.前時に見つけた、自分の課題と解決方法、基準の確認をする。	・試し書きと教材文字の比較から、基準について確認する。		ア自分の課題にそつためあてがつかめる。 イめあてに対する基準がつかめる。	・学習カード
	児童の主な課題 行の中心を意識する 字形(大きさ、外形)を整える				
実行・追求	3.練習用紙を選択したり、作成したりして自分の課題を解決する。	字源を意識した活動を行うよう声をかける		ウ課題意識を持って練習用紙を選択したり作成したりできる。	・自作練習用紙 ・二色筆 ・水書用紙 ・赤ペン ・ビデオ
	4.まとめ書きをする。	・個に応じた課題解決の支援をする。	・めあてに合った練習用紙を作成したり、選択したりできるように助言する。		
まとめ・確認	5.学習カードで自己評価・相互評価する。 ・次時の学習を知る。	・試し書きとまとめ書きを比べて、学習の成果や友達の良さに気づかせる。 ・次時の学習内容を知らせる。		エまとめ書きを基に自己評価できたか。 オ友達のよさに気づくことができる。	学習カード

(3) 評価規準

評価内容	A. 十分満足できると判断されるもの	B. おおむね満足できると判断されるもの	C に対する支援方法
ア自分のめあてがつかめる。	課題にそつて自分のめあてを見つけることができる。	自分のめあてを見つめることができる。	個別指導
イめあてに対する基準がつかめる。	課題に合う基準を自ら見つけることができる。	自分のめあてに対する基準がつかめる。	個別指導
ウ自分のめあてにそつて練習できる。	自分の課題にあった練習用紙を作つて練習することができる。	練習用紙を作つて練習できる。	個別のめあてにあった練習用紙を用意する。
エ自己評価できる。	自分の課題に対して自己評価することができる。	学習カードのめあての項目に自己評価することができる。	個別指導
オ友達のよくなった点を見つけ認め合う。	課題にそつて友達の良くなった点について気づくことができる。	友達の良くなった点に気づくことができる。	個別指導

書写カード

名前

「平仮名の字形と行の中心を知ろう」
えん筆で書いてみよう

ためし書き

まよめ書き

自分の課題

◎ ○ △

自分の評価	仮名の外形をもとに行の中心を見つけることができた	試し書き	まよめ書き
	字形が整っている（一文字の外形や中心）		
自分の感想	行の中心に気をつけて書いた		
感想			

座席表 5年「平仮名の字形と行の中心を知ろう」

試し書きからの自分の課題

I 字の形 「も」はらう方向	I 行の中心 「も」はらう方向 「み」書き始め、結び	O 「も」二箇目の長さ 「じ」はらい	F 「も」はらう方向 横面の長さ 「み」中心 「じ」まっすぐに	M 「も」中心 「み」はらい 「じ」点を小さく	Y 「も」はらう方向 「み」はらいの長さ 「じ」点の形
N 外形 「も」はらう方向、 曲がり 「じ」流れ	K 「も」はらいかた 「み」短くななめ 「じ」点の位置	I 「も」はらう方向 「み」横面の長さ 「じ」点の形	T 「も」はらいかた 「じ」始筆の位置 中心	H 「も」はらいかた 「み」書き始め 「じ」点の位置	I 「も」横面の長さ 「み」はらい
T 「も」長さ 「み」書き始め とめ はらい	I 「も」中心	H 「も」はらいかた 「み」結び 「じ」始筆を左に	T 「み」字形 「じ」はらいの方 向	Y 「も」横面の長さ 「み」はらい 「じ」点の位置	F 「み」とめ 「も」横面の長さ
H 中心と長さ	T 「も」はらう方向 字形	F 中心をそろえる 「じ」点の位置	K 「も」字形 中心 「み」横面の長さ	H 「も」はらいかた	M はらう 「も」長く短く
S 「も」はらいかた 中心	H 「も」はらいかた 形 「じ」点の位置	I 「も」中心 字形	Y 中心 「み」結び	K 中心をそろえる	I 「も」丸み 「み」ななめのとこ ろ

教卓

研究協議会Ⅱ

公開授業Ⅱについての授業整理会

小学校3年 平がなの筆使いを知ろう「にじ」

授業者 越井 千鶴（小松市立串小学校）

司会 間野 晴美（白山市立旭丘小学校） 記録 西井 由以子（小松市立連代寺小学校）

助言者 中西 外美（石川県教育センター指導主事）

◇授業者より

- ・道具のそろえ方からコンテンツまで最近の書写の指導を学んだ。
- ・2学期からコンテンツを使って授業を行った。子どもが集中して見ているなというのがわかる。子どもの目やつぶやきを受けて授業を進めることができる。子どもが紙に向かう時、よし、やろうという気持ちになって臨んでいた。子どもたちは字をかく時自分の中で目標を持ち、うまくできるというイメージを持ちながら練習を進め、授業の終わりには充実感や満足感を得ていたように思う。
- ・準備・後かたづけも上手になってきた。すずりの向きがなおらなかった児童が映像を見てなおったり、墨をゆっくり音を立てずに擦る映像を見て獲得することができた。
- ・繰り返しコンテンツを子どもが見ている間に、机間巡視して手を持って一緒にかいてあげたり、指導することができる。
- ・コンテンツを見て息使いや筆使いを学び、緊張して子どもたちは紙に向かうようになった。中心線の赤を見た時、「あっ。」と声があがる。
- ・プロジェクターをつなぐ、画面を出すという事がこんなに簡単なのかというようになった。

◇質疑応答より

- ・平がなの筆の入り方として、筆ありの画面があったほうがよかったのではないか。
- ・コンテンツの映像が横からかいていたので子どもがまねをしたと思う。
- ・平がなだからといって筆を倒すとか気にせず、軽く止めるという始筆を意識するとよい。
- ・コンピューターを使ってよかった点は誰でもできるということ。指導者も自信を持って教えることができる。
- ・子どもが落ち着いていた。授業が終わったらとても上達していたので、集中のよさと効果を感じた。
- ・かくスピードが速い児童がコンテンツと同じスピードでかいた。目で体感したと思う。
- ・日本人がカタカナとひらがなを併用してきたことがわかった。授業者は平がなを「やさしくやわらかく丁寧にかくのよ。」と言われた。
- ・授業の最後に、試し書きの最初の作品と最後の作品を比べた時、上手になっていてみんなから拍手をもらって感動した。

◇助言者より

3年の書写の授業に子どもたちが真剣に臨んでいたのがよい。

*毛筆の入門期について

今日の授業が今までの積み上げてきたものであることがわかった。一画目・縦画・横画・十時半（筆の入りが十時半の角度）などの用語に関して。また、道具の使い方や書く時・聞く時のけじめやその他学習ルールが確立されている。

*コンテンツについて

授業のどの場面でどの部分を見せるかということ教材研究することが大切である。この場面でこの部分を二回・三回見せようとか細かいところまでイメージするとよい。

- ・一回目、授業の中で、自分のかいたものと比べてみようという場面で使ったのが有効であった。縦画の入り方に焦点をあてた、カタカナの「レ」の縦画の入り方と平がなの「に」の一画目の縦画の入り方の違いである。
- ・二回目、筆の入り方や姿勢のコンテンツを見たタイミングが非常によかった。子どもの中に基本のことが思い出され、意識してその後、生かされていた。
- ・最後、「コンテンツが流れているから見てね。」の声かけがあってもよかった。筆のものが流れていたほうがいい。

*構成について

授業の始めに試しがきをかいて、赤色えんぴつで自分の作品を修正したのが「みそ」であった。このことは自分のめあてや練習する目的がはっきりする大切な活動である。最後に、また友だちの作品にもめあてにそってチェック、丸をつけることに結びつく。子どもたちが自分の中で目標があり、観点がはっきりしていて分かりやすい。

「に」の縦画の始筆・送筆・終筆と「じ」の縦画の始筆・送筆・終筆の六点が今日のチェックする観点である。

子どもたちは書きたいという意識を持っている。今日の授業は半分以上の時間書いていた。とてもよかった。いろんな要素が入っていてよかった。すばらしい授業だ。

書写コンテンツ「書く蔵くん」の紹介

金沢市立大徳小学校 飯田 淳一

1. コンテンツ開発の動機

水書板の問題点

これまで毛筆の書写の授業において、筆使いなどを示すためには水書板を使うことが多かった。しかしこの水書板で教えることは、慣れない者にとって難しいだけでなく、以下のような問題点を抱えている。

- ・大きな筆で、垂直に立てられた板に書くため、たいへん書きづらい。
- ・角度によって見せたい部分が書き手の陰になるなど見えない子どもが存在する。
- ・書き手は子どもの方に背を向けて書くため、子どもの反応を見ることができない。
- ・何度もくり返し書いて見せることができない。
- ・時間がたつと乾いて消えてしまい、保存しておくことができない。

そこで、プロジェクタで大きく見せることを前提とし、授業の中で各単元の学習のねらいを達成するために、主に教師が活用するデジタルコンテンツを作成することを考えた。

一言で言えば「水書板に代わるもの」そして、「さらば水書板」である。

2. コンテンツ開発の目的

毛筆の指導において、教科書に準拠し、主に教師が示範用として使う、動画を中心としたコンテンツを單元ごとに作成し、データベース化する。

3～6年生の全單元と基本的な事項、基本の点画、および実践例が主な内容である。

作成の段階で一般の教員に評価してもらい、開発の意義を確認し、さらに改善を図っていく。

3. コンテンツ開発の設計思想

開発にあたっての前提条件は、プロジェクタで大きく映し、水書板での指導に代わるものにするのである。そして開発の設計思想として、これまでであるデジタルコンテンツを改善する次の3点を考え、作成にあたった。

(1) 基本の点画のみではなく、書く字全体を動画で示したものを作成する。

筆の運びを表示する動画データの作成にあたって、アニメーション作成ソフトを使う方法もあるが、あえて実写にこだわって作成する。それは書き手の存在を意識させるためである。筆使いのみならず筆の運びの緩急やリズム、言わば書き手の呼吸が伝わる動画を通して、子どもたちに少しでも「生きた字」を伝えたいという思いがある。

そのためには、基本の点画のみではなく、その単元で書く字（教科書のお手本）全体を表示することが必要と考えた。これは書き順や筆脈などの提示も兼ねている。

しかし、書いていく様子を撮影するとき、どうしても筆とそれを持つ手が映ってしまう。そしてそれらが映らないように角度を変えて撮影すると、字が台形にゆがんでしまうという困った状態になる。

そこで、字がゆがまず、筆や手に隠れないように撮影するために、以下のような方法を工夫して動画データを作成する。

- ①透明なアクリル板に直接半紙を置き、墨の量を調節しながら書く。
- ②アクリル板の下から裏写りしている様子をビデオカメラで撮影する。
- ③撮ったものをパソコンに取り込み、ビデオ編集ソフトで左右を反転させ、データ化する。

なお、筆使いを見せたい場合は上から筆先をアップで撮影しデータ化する。

(2) デジタルのよさを活かし、動画データを加工して使う。

撮影した動画データを加工し、補助線などを入れ学習の効果を上げる。動画部分は途中で止めら

れるので、くり返しポイントを押さえて、指導できるものにする。

なお動画部分は再生中にダブルクリックすると全画面で大きく表示される。

(3) 一つの単元でまとまったコンテンツとすることで使い勝手をよくする。

画面の中に単元ごとの課題の提示や加工したデータも埋め込んで活用できるようにする。また一目で見せたい動画データにたどり着けるように一覧性を重視する。

授業で使うことを前提としているので、教科書の単元・題材に準拠したものにする。

最初のページは全単元が一覧表示できるようにし、学習の足跡や見通し、指導の系列もわかるようにする。復習や予習（発展）などにも活用できるようにする。

4. コンテンツ活用にあたっての注意点

授業で使用する場合、その単元の課題や授業のねらいをはっきりとさせ、その上で「何をどのように見せるか」を組み立てなければいけない。

デジタルコンテンツは便利だからといって、あるものをすべて見せておけばよいというものではないのである。

教師が忘れてはいけないことは

- ①見る側の必然性（見たい意欲や何のために見るかの意識）を高めた上で見せること
- ②どこをどのように見ればよいかの視点を与え、確認した上で見せること

それを考えるためには、まず授業研究、教材研究をしっかりとする必要がある。場合によっては、「この部分は見せない」という使い方が効果を生む場合もある。

早い話が、デジタルのコンテンツを使う場合も、アナログで教具を準備する場合も同じ、教材研究が大事だということだ。

このコンテンツは学習事項の理解や視覚イメージを持たせることへの効果は、確実にある。

しかし水泳教室のビデオをどれだけ熱心に見ても、見ただけでは泳げるようにはならないのと同じように、ほとんどの場合、コンテンツを見ただけでは上手く書けるようにならない。

実際に体（手）を動かす「書くという運動のイメージ」をつけさせるには、子どもの手を持ってポイントを確認しながら一緒に書くのが一番効果的であるように思われる。

理想とする視覚のイメージと、子ども一人一人の運動のイメージ（書く技能）をどれだけ結びつけられるか、そして単元の課題にいかに向らせるか、教師の授業力にかかっている。

5. おわりに

こんなものがあればいいな、という思いでコンテンツを作成してきた。そして今後も、なお一層より良いものに改善していきたいと考えている。使いにくいところや直すべきところなど改善点をどんどん指摘していただけると幸いである。

2007.8.1 現在の最新のコンテンツの情報は 以下にあります。開発に協力していただける方のみ以下のアドレスからご覧ください。

<http://iida.cafe.coocan.jp/syosyaDB/>

連絡先 iida@nsknet.or.jp 金沢市立大徳小学校 飯田淳一

※コンテンツの使用に関しては、以下の場合のみに限らせていただきます。

- ①書写の授業での使用
- ②教員の教材研究のための使用

※教育現場以外でのコンテンツの複製を固く禁じます。

研究協議会Ⅱ 記録

公開授業Ⅱについての授業整理会

小松市立蓮代寺小学校 西井由以子

◇授業者より

- ・道具のそろえ方からコンテンツまで最近の書写の指導を学んだ。
- ・2学期からコンテンツを使って授業を行った。子どもが集中して見ているなどというのがわかる。子どもの目やつぶやきを受けて授業を進めることができる。子どもが紙に向かう時、よし、やろうという気持ちになって臨んでいた。子どもたちは字をかく時自分の中で目標を持ち、うまくできるというイメージを持ちながら練習を進め、授業の終わりには充実感や満足感を得ていたように思う。
- ・準備・後かたづけも上手になってきた。すずりの向きがなおらなかった児童が映像を見てなおったり、墨をゆっくり音を立てずに擦る映像を見て獲得することができた。
- ・繰り返しコンテンツを子どもが見ている間に、机間巡視して手を持って一緒にかいてあげたり、指導することができる。
- ・コンテンツを見て息使いや筆使いを学び、緊張して子どもたちは紙に向かうようになった。中心線の赤を見た時、「あっ。」と声があがる。
- ・プロジェクターをつなぐ、画面を出すという事がこんなに簡単なのかというようになった。

◇質疑応答より

- ・平がなの筆の入り方として、筆ありの画面があったほうがよかったのではないかな。
- ・コンテンツの映像が横からかいていたので子どもがまねをしたと思う。
- ・平がなだからといって筆を倒すとか気にせず、軽く止めるという始筆を意識するとよい。
- ・コンピューターを使ってよかった点は誰でもできるということ。指導者も自信を持って教えることができる。
- ・子どもが落ち着いていた。授業が終わったらとても上達していたので、集中のよさと効果を感じた。
- ・かくスピードが速い児童がコンテンツと同じスピードでかいた。目で体感したと思う。
- ・日本人がカタカナとひらがなを併用してきたことがわかった。授業者は平がなを「やさしくやわらかく丁寧にかくのよ。」と言われた。
- ・授業の最後に、試し書きの最初の作品と最後の作品を比べた時、上手になっていてみんなから拍手をもらって感動した。

◇助言者より

3年の書写の授業に子どもたちが真剣に臨んでいたのがよい。

*毛筆の入門期について

今日の授業が今までの積み上げてきたものであることがわかった。一画目・縦画・横画・十時半（筆の入りが十時半の角度）などの用語に関して。また、道具の使い方や書く時・聞く時のけじめやその他学習ルールが確立されている。

*コンテンツについて

授業のどの場面でどの部分を見せるかということ教材研究することが大切である。この場面でこの部分を二回・三回見せようとか細かいところまでイメージするとよい。

- ・一回目、授業の中で、自分のかいたものと比べてみようという場面で使ったのが有効であった。縦画の入り方に焦点をあてた、カタカナの「レ」の縦画の入り方と平がなの「に」の一画目の縦画の入り方の違いである。
- ・二回目、筆の入り方や姿勢のコンテンツを見たタイミングが非常によかった。子どもの中に基本のことが思い出され、意識してその後、生かされていた。
- ・最後、「コンテンツが流れているから見てね。」の声かけがあってもよかった。筆のものが流れていたほうがいい。

*構成について

授業の始めに試しがきをかいて、赤色えんぴつで自分の作品を修正したのが「みそ」であった。このことは自分のめあてや練習する目的がはっきりする大切な活動である。最後に、また友だちの作品にもめあてにそってチェック、丸をつけることに結びつく。子どもたちが自分の中で目標があり、観点がはっきりしていて分かりやすい。

「に」の縦画の始筆・送筆・終筆と「じ」の縦画の始筆・送筆・終筆の六点が今日のチェックする観点である。

子どもたちは書きたいという意識を持っている。今日の授業は半分以上の時間書いていた。とてもよかった。いろんな要素が入っていてよかった。すばらしい授業だ。

大会に参加して

創造する楽しみを得る為に

石川県立金沢北陵高等学校

東 智子

今回、県立明峰高校、本間千恵先生の、「篆刻の指導～仕上げのための印のバランスを考える～」の研究授業案内を頂き、専門知識の乏しい私としましては、とても興味を持ち、参加させていただきました。

今回の授業は、篆刻単元 10 時間中の 9 時間目に当たり、“仕上げ”に「虫食い」補刀の作業をするものでした。教科書を拡大コピーして掲示し、見易くした上で、虫くいをする前と後を比較させて、観察。隣の人と話し合うペア学習も取り入れ、気付かせた上で、全体のバランスの大切さと虫くいの必要性を認識させていました。その後、修正ペンと赤ペンを使用して、紙面上で自分の印を補正し、更に補刀をすることによって、趣を出す、という所まで時間内に進めており、大変内容のある授業でした。

朱文と白文の選択や書体などは、古典を参考にして生徒が自主的に決めたとのことでした。生徒が「授業が楽しい」と感想を述べた点からも、先生の指導力と、生徒の技術の高さに驚き、感心しました。授業後の意見交換の中でも指摘されていましたが、本間先生の言葉が、明確で聞き取り易い為、的確な指導がなされていた点は、評価されると思います。

授業を進めていく中で、指導者の話を聞くことができない生徒が増えてきています。これは、学力レベルと関係があるかと思いますが、生徒を授業に引き付ける話し方について、もっと考えてみる必要があります。

書道は、技術と知識、感性が必要とされますが、本間先生も言われていましたが、自主的な気持ちを持たせ、創造する楽しみを感じさせることによって、芸術分野での「書道」が位置付けられると思います。しかし、現実には、小・中学校での書写の授業時間数の減少などからか、筆遣い、ペンの持ち方、筆順、左利きの指導方法などを含めて、「基本」を指導する為の時間も必要となっています。そこで、指導者が専門的な知識を持ち、得意とする分野では、時間をかけることにより、完成度の高い作品が仕上がり、生徒たちは深い達成感を「得ることができると思います。

「速さ」が求められる現代社会の中で、じっくりと手間をかけることの意味が理解できるでしょうし、させたいと思いました。そして、生徒が社会に出たときに、「書道を選択しておいて良かった」と思える様、指導者としての努力をしていかねばと感じました。

短い時間でしたが、とても刺激を受け、参考となりました。指導をされた本間先生、関係された先生方、ありがとうございました。

書とITの融合

小松市立串小学校

教諭 宮越 友江

今回、本校が「石川県書写書道教育研究大会」の会場校であり、幸運にも公開授業と全体会の両方に参加することができ、多くのことを学ばせていただくことができました。

授業では、コンテンツの利用による書写指導を初めて参観しました。現在、ITを活用した授業がさかんに行われていますが、日本古来の文化である書道とIT機器との融合は私の中では考えられないことでした。しかし、「書く姿勢や筆の持ち方」、「筆遣いや書く速さ」、「書く時の息遣いや筆の動き」など、口では説明しにくい技術的な指導が、視覚を通して何度も繰り返してできることが、コンテンツを利用する利点であることを学びました。実際にその効果は、児童のまとめ書きの作品にも如実に現れており、初めの試し書きの字との違いには目を見張るものがありました。授業者も全体会の場で、「今まで言葉で教えてもできなかったことが、コンテンツを見たらすぐできるようになった。」と述べており、本大会のテーマでもある「基礎・基本をふまえて」という部分における視覚的教材の効果の大きさに驚かされました。

一方、同じくテーマの「豊かな心を育てる」ことにも気を配って授業が展開されていたことが心に残りました。例えば、私は普段この教科を、個人の書写技能を高める側面からばかり見て、個人が練習する時間としてしかとらえていませんでしたが、今回の授業では、子ども同士が、話し合ったり、評価し合ったり、アドバイスをもらったりと学び合い、関わり合う場面が多く見られました。特に最後の、試し書きとまとめ書きの作品を比べる場面では、友達の字の上達に驚きの声が上がったり、友達の頑張りに拍手が起こったりと温かい空気が教室に広がりました。そこには技術の向上だけでなく、互いに認め合い、良さを共有しようとすることによって、豊かな心を育てる時間にしたいという授業者の配慮が感じられました。

全体会においても、熱心に書写教育に携わっておいでる方々からの質問や意見、感想などが次々に出され、書とITの融合が、これら専門家の眼から見ても、十分にインパクトのある革新的な指導であることが伺えました。日頃十分な書写指導を行っていない私にとって、大変参考になることの多い、有意義な時間でした。

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) する。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>
顧問 南 和男<石川県教育長>
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>
副会長 [石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏
[金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
[金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長>
[石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>

理事長 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任
副理事長 : 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>
: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>
: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>
: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>

監事 吉田一郎<小松市立向本折小校長>
木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>

理事 : 県教委学校指導課:
[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫

* 金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
: 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
: 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

* 加賀地区

: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
: 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
: 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

* 能登地区

: 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
: 高校部: 齋喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

: 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
: 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
: 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
: 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
: 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭>
: 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行

(平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]

第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会 [小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行

1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

(平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]

9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会 [鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]

第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行

(平成 8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]

6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]

第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行
 (平成9年)6.25 第19回理事会 [六華苑]
 10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行
- 11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会** [加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
 第20回理事会
1998. 3. 『石川県書写書道教育』（第16号）発行
 (平成10年)7.18 第21回理事会 [六華苑]
 10. 『石川県書写書道教育』（第17号）発行
- 11.2 第9回石川県書写書道教育研究大会** [内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
 第22回理事会
1999. 3. 『石川県書写書道教育』（第18号）発行
 (平成11年)6.16 第23回理事会 [六華苑]
 9. 『石川県書写書道教育』（第19号）発行
- 10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会** [七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
 第24回理事会
2000. 3. 『石川県書写書道教育』（第20号）発行
 (平成12年)6.9 第25回理事会 [六華苑]
 10. 『石川県書写書道教育』（第21号）発行
- 12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会** [金沢勤労者プラザ]
 第26回理事会
2001. 3. 『石川県書写書道教育』（第22号）発行
 (平成13年)6.9 第27回理事会 [六華苑]
 10. 『石川県書写書道教育』（第23号）発行
- 12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会** [根上町総合文化会館]
 第28回理事会
2002. 3. 『石川県書写書道教育』（第24号）発行
 (平成14年)8.8 第29回理事会 [六華苑]
 10.23 『石川県書写書道教育』（第25号）発行
- 12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会** [野々市町文化会館・菅原小学校]
 第30回理事会 [野々市町フォルテ]
2003. 8.27 第31回理事会 [六華苑]
 (平成15年)**12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会** [金沢市西町教育研修館（金沢大学サテライトプラザ）]
 第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]
2004. 8.10 第33回理事会 [六華苑]
 (平成16年)12. 『石川県書写書道教育』（第26号）発行
- 12.10 第15回石川県書写書道教育研究大会** [松任市市民交流センター・蕪城小学校]
 第34回理事会 [松任市市民交流センター]
2005. 10.3 第35回理事会 [六華苑]
 (平成17年)12.2 県大会準備会
- 12.9 第16回石川県書写書道教育研究大会** [金沢市教育プラザ富樫]
 第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
2006. 10.3 第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]
 (平成18年)11.17 県大会準備会
- 11.27 第17回石川県書写書道教育研究大会** [石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校]
 第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかける」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」

10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12. 7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12. 7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～
13	2002.12. 5	野々市町立菅原小学校6年 ・研究協議		
14	2003.12. 4	【金沢市西町研修館】 (金沢大学サテライトプラザ) ・研究協議		
15	2004.12.10	【松任市民交流センター】 松任市立蕪城小学校 3年・6年 ・研究協議		
16	2005.12. 9	【金沢市教育プラザ富樫】 ・研究協議		
18	2006.11.29	石川県立小松明峰高等学校1年 小松市立串小学校3年 ・研究発表		

平成18年度 石川県書写書道教育連盟役員

〈☆印 新〉（敬称略）

顧問 ☆中西吉明〈石川県教育委員会教育長〉

相談役 坂口 敏 久田久信 氷田茂良 法水光雄 押木秀樹

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子 ☆石浦義彦

会長 藤 則雄〈金沢大学名誉教授・元金沢大学教育学部長〉

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	浅田秀雄
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通〈妙源寺幼稚園園長〉
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)]	長井珠子〈金沢市立浅野町小学校教頭〉
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	吉崎利成〈金沢市立芝原中学校校長〉
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	鈴木庸雄〈県立金沢錦丘高等学校校長〉
[石川県特殊教育諸学校校長会代表]	☆尾小山輝子〈県立盲学校校長〉
[石川書写の会会長]	町出憲子〈金沢市立大浦小学校校長〉
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	折川 司〈金沢大学講師〉

理事長 ☆永江芳教〈県立金沢泉丘高校教諭〉

副理事長

: 小学校部: 大浦 努〈金沢市立森本小学校教諭〉
: 高校部: 林 昭悦〈県立金沢中央高等学校教諭〉
: 盲・ろう・養護学校部: ☆苗代正盛〈県立盲学校教頭〉[県特殊教育諸学校教頭会代表]

監事 帽子山瑞枝〈和倉小学校教頭〉 ☆古本佳世〈兼六中学校教諭〉

理事

* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 中西外美〈県教育センター指導主事〉
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] ☆中川素子〈県学校指導課指導主事〉

* 金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子〈みどり・かわい幼稚園副園長〉
: 小学校部: 石野昌子〈扇台小学校教諭〉 中川晃成〈中村町小学校教諭〉
: 中学校部: 福島絹子〈大徳中学校教諭〉 古本佳世〈兼六中学校教諭〉
: 高校部: ☆田中学〈金沢伏見高校教諭〉

*加賀地区

: 小学校部 : ☆北川清昭<矢田野小学校教諭>

*能登地区

: 小学校部 : 帽子山瑞枝<和倉小学校教諭> 奥原せい子<櫛比小学校教諭>

: 中学校部 : 山田寿一 <中能登地方教育事務所長>

: 高校部 : 嬬喜代子<県立飯田高校教諭>

: 盲・ろう・養護学校部 : 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

: 事務局長 : 中川晃成<中村町小学校教諭>

: 副事務局長 : 岩田稚子<錦丘中学校教諭> ☆八田和幸<高岡中学校教諭>

: 庶務部

部長・田中学<金沢伏見高校教諭> 副部長・堀順一郎<野々市中学校教諭>

・西脇良樹<越路小学校教諭> 山田千恵<月津小学校教諭>

: 会計部 :

部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<安原小学校教諭>

部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部 :

部長☆水上真由美<金沢商業高校教諭>・副部長・柿木千鶴<諸江町小学校教諭>

・坂井雪絵<志雄小学校教諭> 木之下知子<材木町小学校教諭>

・倉下真澄<金沢大学付属中学校講師>・間野清美<旭丘小学校教諭>

・東山麻由美<鳳至小学校教諭> ☆飯田淳一<大徳小学校教諭>

☆金野 豊<十一屋小学校教諭> ☆永井重輝<森本小学校教諭>

: 会報部 :

部長・新谷幸一<三谷小学校教諭>・副部長・北野京子<諸江町小学校教諭>

部員・佃さえ子<泉野小学校教諭> 寺井純子<町野小学校教諭>

・岸瑞代<大聖寺高校講師> 中辻育代<能美小学校教諭>

・吉田美晴<浅野川小学校教諭>・水谷清美<千坂小学校教諭>

平成18年12月現在

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推薦することができる。
（3）役員の選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

[附則]

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

書道用品専門店

文房四宝 **文真堂**

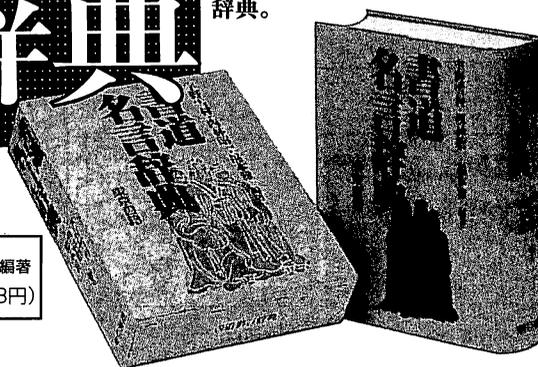
金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836

東京書籍

北陸支社:〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719
ホームページ… <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>
東曹Eネット… <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

書道 名言辞典

書・篆刻・文房に関して、中国・日本の書論・随筆・詩などから名言・名句を集め、やさしく解釈・解説した読む辞典。学書・指導・鑑賞の指針となる初めての書の名言辞典。



宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著
A5判/788頁/定価7952円(本体7573円)

技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社

大 昌

本社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048

額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

練習用から作品用まで

墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗
(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液

天衣無縫

松潤

書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨



作品用書道液

株式会社 吳竹

〒630-8670 奈良市南京崎町7-576

Kuretake TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹場

☎731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009番地

東京 東京都台東区台東3-42-4

書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター

株式
会社



本社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-5 0 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ"
熊野筆センター広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-2-9 TEL082(222)1919

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材



株式
会社

因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地

TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811

E-mail insyuya@apionet.or.jp

高級洋装留袖 各種特注留 器具製作
高級木製留袖 各種留袖・衝立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33

TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851

ホームページ: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@pl.tcnet.ne.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

平成18年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習 1,2年上下 3～6年刊 各320円(税込)

毛筆書写の練習 3～6年 年刊 各420円(税込)

●小学校書写 指導用資料(学校備品)

毛筆書写指導ビデオ(準拠外)全3巻 各9,975円(税込)

書写掛図(硬筆) 1,2年各1巻 各12,600円(税込)

書写掛図(毛筆) 3～6年各1巻 各16,800円(税込)

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳 1年/2,3年全2冊 各350円(税込)

光村教育図書株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

 **能登印刷株式会社**

本社●〒920-0855石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場●〒924-0013石川県白山市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社●株式会社博文堂 シナジー株式会社

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076)267-2077
FAX (076)267-2078

書道、水墨画用品の激安専門店!

日本書道販売株式会社

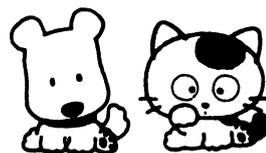
ミドリヤ

本店 石川県能美市五間堂46-6
TEL 0120-58-4344 FAX 0120-58-4346
営業時間 10:00~18:00

画仙紙(紅星牌・福建紙・台湾紙・因州・伊予半紙・料紙・和紙)
和筆(広島熊野筆)・唐筆(上海工芸)
和墨(呉竹・墨運堂・古梅園・開明)
唐墨硯(端溪・老坑・歙州・澄泥・細羅紋)
印材(青田・巴林・寿山)、印刀(永字牌等)
色紙、短冊、和紙小物
額(書道額、テッサン額、水墨画用額)
表装、表装用品

★通信販売もしています

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

白山市新田町10-3
TEL 076-274-6370
FAX 076-274-6372

文	溪	堂
新	学	社
光	文	書
教	育	同
日	本	標
		準



代理店

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

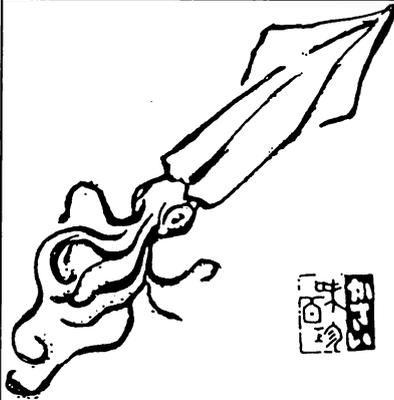
あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売 有限会社 **本田教材社**

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705



味のかさい

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地
TEL (076)247-2231
FAX (076)247-3612
片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号
TEL (076)262-9333
FAX (076)262-9333

(株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

OA機器・事務器・文具・紙製品

百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地
TEL・FAX 257-2065

年
松
井
秀
喜

大好評
あなたのお名前
の手本を
サービス

- 名前書きの指導にぴったり
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 **ヤマガミ共育社**
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL. 291-1250 FAX.292-8008

FOOTBALL&BASKETBALL
Pro shop
N&S KANAZAWA
金沢市久安3-361
TEL / 076-245-5510
HP <http://www.ns-sports.jp/>

日本画・洋画

壁
襖
製
工
事
部

屏
額
掛
風
装
軸

美
術
部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

学校教材特約店

島 野 教 材

代表者 島 野 英 伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町イの41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式
会社 **布村教材社**

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

うつのみや

柿木島本店 / 金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111



金沢・北安江

TEL 231-6773

FAX 231-6940

学校教材なんでも

書籍・文房具・教材・教具

粟 津 書 店

粟 津 祐 治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

㈱ハローバッテリーセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

車両販売・三井住友海上火災保険代理店

(有)ケーティオート

加賀市湖城町2-345
TEL 0761-75-3615
FAX 0761-75-3614

月刊 **ASOCCAR** 掲載中!!

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 の 教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4
☎(076)232-2425(代)

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9
TEL 267-0503 FAX 267-5271